



羽ノ浦町とのご縁

羽ノ浦町とのご縁をいただいて十数年が経ちます。

初めて羽ノ浦町に足を踏み入れたのは、阿波踊りグループ「やめら連」に入った時のことです。当時は、まだ独身でした。日曜



羽ノ浦町 仁尾 和子さん

引越してきた時には、初めから運命に決められていたかのような不思議な感じでした。

私は、仕事

そこで主人と出会いました。初めは男踊りのライバル同士でした。私は、この人だけには負けたくない!と思いつつ、水神祭やコスモス祭り、阿南の夏まつりにもお互い仲間として参加していました。そうこうするうち、ライバルのはずが、いつの間にか引かれ合い結婚に至りました。結婚し、

2人の息子が生まれてからも一緒に阿波踊りを続け、阿南市内に通っていました。

そんな中、主人が、もともと多くの人の直接役に立つ仕事をしたと、徳島新聞販売店へ転職をしました。どこの地域で販売店をさせてもらうのか?不安でたまりませんでした。そして、羽ノ浦町の販売店を預かることが決まった時、縁を感じないわけにはいきませんでした。縁のある場所に

も子育てもまだまだこれからです。もつともつと地域の方々と交流をして、阿南市のいろいろな事を教わりたいと思っています。このご縁のある地でのこれからが楽しみです。次は、羽ノ浦町の松坂愛貴さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

香川ミヨ子
毀れやすきレタスの葉つぱパリと剥ぐ朝の厨の清しきはじまり

中原 一
おほかたは過ぎたるひとよ一生来世また誰をか求む花いちもんめ

米田千代美
陽に干しし布団の匂う部屋にいて主婦なるわれの一人の時間

徳川 明美
不条理を正す力のなけれども苺白花ひかりを反す

臣永 悦子
山菜を摘め得ぬ被災地偲びつつ今朝露の臺小さきぎざむ

矢野 道子
眩しかり小春日いっばい注がれて母の柩は今出でんとす

青木 弘子
児ら五人思い思いのゲーム機にメダカのように指先踊る

俳句

阿南市俳句連合会選

品川 重晴
秋冷がそぞろに寄せる膝頭

小京都うねる大屋根秋茜

青木 慧

嫁ぎきて健やかに老い菊日和

阿部 勝代

父の碑の植木刈込み秋惜しむ

陶久 晴義

晩年を何時とも知らず天高し

山根 溪風

まつたけ飯みんな無言の機内食

宮田 春子

書を閉じて目のツボを押す良夜かな

竹治 綾子

鷹渡る空に高さのありにけり

小西 晴美

大鍋の匂ひ流して芋煮かな

東條 当子

秋天の阿波に始まる札所道

奥田 蒼朗

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

きれいなあ隣の芝も奥さんも

橋本 征介

猛打賞それでも代打送られる

岡本 福笑

ほろ苦き言の葉包むオブラート

西田 修身

破れない古着眺めてまた仕舞う

佐藤つたえ

衝動買い家の鏡に責められる

臣守 愛香